

2024年5月8日

各位

会社名 シンバイオ製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長兼CEO 吉田 文紀
(コード番号: 4582)
問合せ先 IR担当 (TEL.03 - 5472 - 1125)

注射剤プリンシドフォビルによる第Ⅱa相臨床試験 (ATHENA試験) における 造血幹細胞移植後のサイトメガロウイルス感染症を対象とした臨床試験開始のお知らせ

シンバイオ製薬株式会社(本社:東京都、以下「シンバイオ」)は、現在、造血幹細胞移植後のアデノウイルス感染症(以下「AdV感染症」)を対象とした注射剤プリンシドフォビル第Ⅱa相臨床試験は予定通り本年上半期に終了を予定しております。この度は、2つ目の適応症となる造血幹細胞移植後のサイトメガロウイルス感染症(以下「CMV感染症」)を対象とした臨床試験のためのプロトコル変更申請につきまして米国食品医薬品局(FDA)に本年2月に受理されたことから、現在1例目の患者投与に向け米国の主要な移植施設と鋭意準備を進めております。

造血幹細胞移植後のCMV感染症については、現在有効な治療薬はあるものの再活性化例が相当数で認められ、治療薬への耐性・不応例があり、未充足の治療領域であることから医療ニーズは極めて高く、経口剤BCVの臨床試験においてBCVのCMV感染症に対して有効性が高いことが認められており、本試験は安全性が高い注射剤BCVによる臨床試験を実施するものです。

この度のプロトコル変更により、CMV感染症に対する臨床試験がATHENA試験の一部となることから、その試験期間を反映しATHENA試験の試験期間を延長することになりました。

なお、現在実施中のAdV感染症を対象とした第Ⅱa相試験において、現在コーホート4までの投与は既に終了し、今回のプロトコル変更に伴うAdV感染症に関する開発計画への影響はありません。

本件が2024年12月期業績に与える影響はありません。

以 上

【抗ウイルス薬ブリンシドフォビル (brincidofovir : BCV) 概要】

BCVは米国では既承認のシドフォビル (CDV : *cidofovir*、本邦では未承認) の脂質結合体として新しい作用機序を有しています。CDV及び他の抗ウイルス薬と比べ、より低用量で広範囲の抗ウイルス効果を示すなど優れた特徴を併せもち、様々な2本鎖DNAウイルス (サイトメガロウイルス、アデノウイルス、エプスタイン・バーウイルス、ヘルペスウイルス、BKウイルス、パピローマウイルス及びサル痘や天然痘ウイルスなど) に対して有効な治療方法となり得るものと期待されています。BCV分子の細胞内への取り込み効率が飛躍的に向上し、細胞内ではウイルスの複製阻害として作用するCDV-PP (CDV diphosphate) 分子に変換され高い抗ウイルス効果を発揮します。更には、CDVを初めとする他の抗ウイルス薬に比べ深刻な副作用である腎毒性または骨髄抑制を回避できる新規の高活性の抗マルチウイルス薬として期待されています。2019年9月、シンバイオは、Chimerix, Inc. (キメリックス社、本社：米国ノースカロライナ州) との間で、天然痘やサル痘などのオルソポックスウイルスを除いたすべての疾患について世界全域を対象として、BCVに関する開発・販売・製造を含めた独占的権利の取得を目的とするライセンス契約を締結しました。尚、錠剤および経口懸濁液 (経口剤) は、2021年6月4日に天然痘の治療薬として成人および新生児を含む小児の患者を対象にキメリックス社が承認を取得しています。BCVは、高い抗ウイルス作用に加え、抗腫瘍効果も期待されており、現在、シンガポール国立がんセンター、カリフォルニア大学サンフランシスコ校などとの間で抗がん活性の確認及び抗ウイルス活性と合わせることによる相乗効果を確認するための共同研究を進めています。臨床試験及び著名な研究機関との主な共同研究開発として下記を推進しています。

造血幹細胞移植後のアデノウイルス感染症患者を対象とした第II相臨床試験を開始し (2021年3月)、FDAよりファスト・トラック指定 (2021年4月)。コーホート3までのデータに基づき抗ウイルス効果のPOC (Proof of Concept) の確立を確認 (2023年5月)。

カリフォルニア大学サンフランシスコ校脳神経外科脳腫瘍センターで難治性脳腫瘍に対するBCVの抗腫瘍効果を検討する非臨床試験を開始 (2021年9月)。

EBウイルスの関連疾患であることが近年証明された難病の多発性硬化症について、米国国立衛生研究所 (NIH) に所属する米国国立神経疾患・脳卒中研究所 (NINDS) との間で、多発性硬化症の治療におけるBCVのEBウイルスに対する効果を検証し、今後の臨床試験の実施に向けて必要とされる情報を得ることを目的として共同研究開発契約 (CRADA : Cooperative Research and Development Agreement) を締結 (2023年3月)。

EBウイルス関連リンパ増殖性疾患に対するBCVの有効性を評価することを目的とし、NIHに所属する米国国立アレルギー・感染症研究所 (NIAID) との間でCRADAを締結 (2023年4月)。

アルツハイマー型認知症を含めた様々な脳神経領域の重篤性疾患に、潜伏しているウイルスの再活性化による感染の関与についての研究がこの数年進んでおり、米国タフツ大学により確立されたヒト神経幹細胞を培養し脳組織を3次元に模倣した単純ヘルペスウイルス (HSV) 感染・再活性化モデルを用いて、HSV感染に対するBCVの効果を検証するための委託研究契約 (Sponsored Research Agreement) を締結 (2022年12月)。

【当会社概要】

シンバイオ製薬株式会社は、米国アムジェン社元副社長で、旧アムジェン株式会社の実質的な創業者である吉田文紀が2005年3月に設立した医薬品企業です。経営理念は「共創・共生」 (共に創り、共に生きる) で表され、患者さんを中心として医師、科学者、行政、資本提供者を「共創・共生」の経営理念で結び、満たされない医療ニーズに応えてゆくことにより、社会的責任及び経営責任を果たすことを事業目的としています。なお、2016年5月に米国完全子会社 Symbio Pharma USA, Inc. (本社：米国ノースカロライナ州、代表者：ジョン・ホートン) を設立しました。